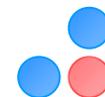


日本物理学会領域2 運営会議



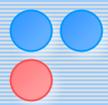
日本物理学会 第68回年次大会
2013年3月27日12時40分～13時25分
@広島大学(東広島キャンパス) EA会場

報告と討論

- 1) 2013年4月からの新役員体制について
- 2) 学生優秀発表賞に関する報告
- 3) 若手奨励賞(第8回(2014年))選考について
- 4) 2013年秋季大会案内とシンポジウム, 招待・企画講演の提案
- 5) プラズマ宇宙物理3学会合同セッションに関する関連報告
- 6) PLASMA2014開催に対する議論と報告

関連報告, その他

- 1) AAPPS関係報告(菊池満(原子力機構))
- 2) 日本学術会議報告(伊藤早苗教授(九大応力研))



報告と討論

1) 領域2役員体制の変更について

退任する役員

(~2013.3末)

菊池 満 (前代表・原子力機構)

(~2013.9末)

三好 隆博 (役員・広島大学)

田村 直樹 (役員・核融合研)

蓮尾 昌裕 (役員・京都大学)



新役員 (領域運営委員) 候補者として、
以下の方々を推薦したい

(任期:2013.10~2016.9)

井戸 毅 (核融合研)

成行 泰裕 (富山大学)

難波 慎一 (広島大学)

今後の役員体制(案)

(2013.4から2014.3まで)

領域代表 米田 仁紀 (電気通信大学)

領域副代表 斉藤 輝雄 (福井大学)

領域前代表 安藤 晃 (東北大学)

(2014.3まで領域委員、2014.9まで役員)

役員 (領域運営委員) 出射 浩 (九大応力研)

役員 (領域運営委員) 永岡 賢一 (核融合研)

役員 (領域運営委員) 宮戸 直亮 (原子力機構)

(2014.9まで領域委員、2015.9まで役員)

役員 (領域運営委員) 岡本 敦 (東北大学)

役員 (領域運営委員) 東口 武史 (宇都宮大学)

役員 (領域運営委員) 横井 喜充 (東大生産研)

(2013.10から2016.9まで役員、2014.4から2016.3までは領域委員)

役員 (領域運営委員) 井戸 毅 (核融合研)

役員 (領域運営委員) 成行 泰裕 (富山大学)

役員 (領域運営委員) 難波 慎一 (広島大学)

2) 日本物理学会領域2・学生優秀発表賞

学生優秀発表賞

物理学会領域2が独自に設けた賞で、物理学の発展に貢献しうる優秀な一般講演発表を行った学生(応募時に学生の身分)の方々に対して授与するもの(詳細は、領域2HP (<http://div.jps.or.jp/r2/index.html>)中の“学生優秀発表賞”のページをご参照ください)

2012年秋季大会における第2回審査結果

候補件数18件より、以下の3件が学生優秀発表賞を受賞した

池内真司(福井大学遠赤外領域開発研究センター)

「サブテラヘルツ帯高出力パルスジャイロトロンモード間相互作用」

畑昌育(名古屋大学大学院理学研究科)

「プラズマ中の磁場構造における有限電子温度効果」

船生拓矢(東北大学大学院工学研究科)

「高周波イオン源を用いた高密度プラズマ生成と水素負イオンビーム引き出し」

今後も各大会(年次大会、秋季大会)において継続して実施予定

領域1でも同様の制度運用が開始されており、今後物理学会としての表彰としての制度化を目指す

3) 若手奨励賞(第8回(2014年))選考について

第8回(2014年)若手奨励賞 スケジュール(予想)

1. 募集の案内 2013年6月号会誌会告
2. **募集×切** **2013年7月末頃**

授賞対象

論文として公表された研究業績で、その研究内容(またはその一部)が日本物理学会において登壇者として発表されていること

応募資格

応募の時点で物理学会会員で、**受賞年度の3月31日で37才以下**

提出書類(領域2の募集案内参照)

履歴書, 発表論文リスト, 対象論文のコピー(3篇以内), 該当する学会発表の概要コピー, 推薦書(または自薦書)、その他必要書類

受賞者義務

第69回年次大会(2014年春)にて若手奨励賞受賞記念講演を行うこと

以上の詳細については,

http://div.jps.or.jp/r2/pdf/2011/wakateprize_v3.pdfに掲載

【参考】これまでの受賞者は, 以下のウェブサイトで閲覧可能

<http://www.jps.or.jp/activities/awards/wakate.html>

4) 2013年秋季大会の紹介

○開催場所: 徳島大学(常三島キャンパス)(物性)

○開催日程: 2012年9月25日(水)～9月28日(土)

参考

○開催場所: 高知大学(素、核、宇)

○開催日程: 2012年9月20日(金)～9月23日(月・祝)

今後の予定

○講演申し込み期間(WEB): 5月3日(金)～5月26日(日)17時

○予稿原稿締め切り: 7月12日(金)必着

○講演申し込み数: 1人3件以内

○シンポジウム、招待・企画講演、チュートリアル講演申し込み:
: 4月5日(金)～4月26日(金)

○キーワード: 領域2HPを参照

4) 2013年秋季大会での招待・企画講演, シンポジウムの提案状況

チュートリアル講演

プラズマ波動とモード変換の物理

講演者: 前川 孝 (京都大学 エネルギー理工)

提案者: 出射 浩 (九大応力研)

招待講演

簡略化モデルによるL-H、H-L遷移の時空間構造の解析

講演者: 三木一弘 (韓国NFRI) 提案者: 宮戸直亮 (原子力機構)

シンポジウム

宇宙プラズマ無衝突衝撃波生成の大型レーザー模擬実験

提案者: 高部英明 (阪大レーザー研)

乱流揺動実験の新展開

提案者: 藤澤彰英 (九大応力研)

提案を4月初め頃(4月10日)まで受け付けます。

プラズマ波動とモード変換の物理

(京大 前川 孝)

講演概要

提案者: 出射 浩 (九大)

1. モード変換とは

磁場中のプラズマ波動: 電磁波モードと静電波モードに大別。

電磁波モードが不均一プラズマ中を伝播し共鳴層に到り静電波モードと結合。

様々な周波数帯域で電磁波モードの共鳴層があり、そこで静電波モードと結合。

静電波は群速度が粒子の熱速度程度なので伝播軌道単位長あたりの吸収が大。

従ってモード変換はプラズマ波動エネルギーの吸収を促進する。

2. 電子サイクロトロン周波数帯の場合

二つの種類の電磁波モード(正常波モードと異常波モード)が存在。その特性。

静電波モードは一種類で電子バーンスタイン(EB)波とよぶ。EB波の特性。

異常波モードが高域混成共鳴層に至りEB波と結合。

微分方程式によりモード変換を記述。

異常波の共鳴吸収モデルを用いたS行列によるモード変換の解析。

トーラスプラズマへの適用(加熱・電流駆動、輻射計測)

高域混成共鳴層での衝突減衰とパラメトリック崩壊

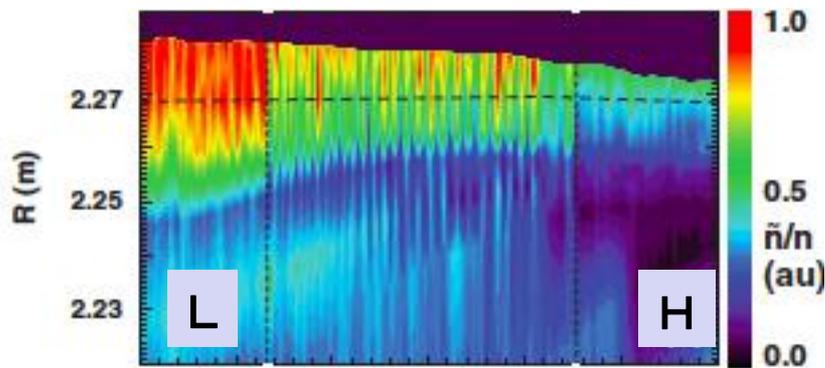
3. まとめ

簡略化モデルによるL-H、H-L遷移の時空間構造の解析

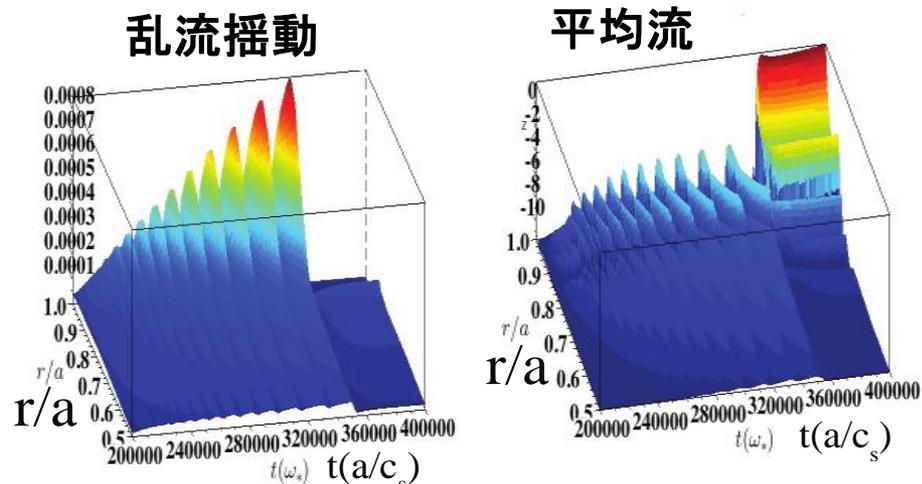
講演者:三木一弘(韓国NFRI) 提案者:宮戸直亮(原子力機構) 説明者:出射 浩(九大)

磁場閉じ込めプラズマに外部加熱を行うと、プラズマ端での閉じ込めが改善するL-H遷移が起こり、輸送障壁(ペDESTAL)が形成される。L-H遷移には長い研究の歴史があるが、近年、遷移の過程で、準周期的な乱流揺動の振動状態(リミットサイクル振動)も発見されるなど、精力的な研究が続いている。

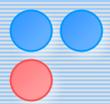
韓国NFRI(National Fusion Research Institute)の三木博士はリミットサイクル振動も含めたL-H遷移にかかる時空間構造を世界で初めて再現するメゾスケールの1次元輸送モデルを開発し、帯状流が本質的にL-H遷移のトリガーとなる事など明らかにしてきた。



DIII-D実験による周辺領域揺動のL-H遷移にともなう時空間発展([L. Schmitz *et al.*, PRL '12]. LモードとHモードの間に空間伝播をともなう準周期的振る舞いが観測された。



モデル計算による周辺領域の揺動と平均流のL-H遷移にともなう時空間発展は、実験結果に似た振る舞いを示す[K. Miki *et al.*, PoP '12]



宇宙プラズマ無衝突衝撃波生成の 大型レーザー模擬実験

シンポジウム提案
高部英明(阪大レーザー研)

宇宙線が発見されて101年が経つ。しかし、宇宙線の加速機構については諸説有り、未だに決着は付いていない。 10^{15} eVまでの宇宙線は我々の銀河内に起因すると推測されている。それは超新星残骸から放射されるkeV領域のサイクロトロン放射が超相対論にまで加速された電子によることから推測される。加速には無衝突衝撃波と磁気乱流が必要である。超新星残骸プラズマが周りに飛び出す中で、対向流のプラズマが磁気不安定(Weibel instability)で自己磁場生成を行い、非線型段階で磁気島の大きさがどんどんリコネクションで大きくなる、その結果、イオンの流れのラーモア運動が磁気島に補足され、乱流場の中に衝撃波という構造形成が起こることを予言した。それを実験的に検証すべく、超新星残骸と密度だけ異なるが、無衝突で対向流速の1000km/sと超新星と同じ条件を満たすプラズマを実験室内に生成してきた。その課程で、静電衝撃波の生成や、そのカオスからの生成などを実験的に見出した。今後、磁気乱流が期待できる大型プラズマを世界最大のNIF装置で実現したい。これまでの成果と今後の計画についてシンポジウムで報告し、会場と議論していただきたい。

シンポジウム構成

1. はじめに
阪大 高部英明
2. 宇宙物理学における観測・理論と課題
青学 山崎 了
3. 高マッハ数無衝突衝撃波生成の理論
九大 松清修一
4. 無衝突衝撃波のレーザー模擬実験の成果
阪大 坂和洋一
5. 討論



乱流揺動実験の新展開

シンポジウム提案
藤澤彰英(九大応研)

背景と目的

プラズマ乱流による構造形成は、実験室プラズマ、核融合プラズマ、天体プラズマにおいて、普遍的に観測され、その共通物理の理解のために磁化プラズマの乱流揺動計測に多くの努力が払われてきた。

近年、加熱のモジュレーションや自発的リミットサイクル現象に統計的畳み込みを適用する等、**実験技術、信号処理、データ解析**が大きく進展し、精度や時間分解能の飛躍的向上によりこれまで観測できなかった現象が解析可能になってきた。この“新たな目”により波の振幅や波数の変調、乱流の塊の伝搬や新しいタイプのヒステリス等の**非線形現象**が次々と明らかになってきた。

この**乱流揺動実験の新展開**に注目し、**プラズマ乱流の基礎課程となる非線形現象**の理解を目指したシンポジウムを提案する。

シンポジウムの構成(案)

1. 揺動計測と動的輸送研究の展開
—趣旨説明含む—
稲垣 滋(九大応研) **30分**
2. L-LCO-Hに伴う揺動の動的応答
小林達哉(九大総理工) **30分**
3. マイクロ波揺動計測による輸送研究
徳沢季彦(核融合研) **30分**
休憩 10分
4. メゾスケール揺動の非線形機構
山田琢磨(東大新領域) **30分**
5. 電子温度勾配揺動
文 賛鎬(東北大工) **30分**
6. 巨視的流れ構造形成
神谷(原子力開発機構)(予定) **30分**

学会企画講演の申し込み (新しい提案)

背景

日本物理学会領域2での講演数の微減傾向が続いている。

(理由:核融合プラズマ分野の講演が他学会に流れている。大学関係者以外の講演申込数の減少、関係大学研究者が応用関係に移動、・・・など)

日本物理学会領域2は、プラズマ物理に関して基礎から応用を含めきちんとした物理を議論できる場として、活性化を図ることは使命でもあり、きわめて重要。

提案

領域2での講演申し込み方法の新規提案

従来:キーワード付きで申し込み、領域役員が関係する講演をまとめ、プログラムを構成。→講演者側はどういったセッションで発表することになるかプログラムを見るまでははっきりしない。

「企画セッション」を設ける。

学会企画講演の申し込み (新しい提案)

企画セッション

- **企画者(責任者)**を決め、セッション名とキーワードを設定。
- 企画したテーマに沿って**一般講演を募集**。(講演応募者はアブストラクトに企画セッションでの発表希望と明記。)講演数の目安は**6講演単位**をめど。
- 企画者は責任を持って企画セッションでの講演申し込みを促す。また、講演プログラム構成に関して領域役員へ協力する。
- 企画セッションと連携したシンポジウム提案も歓迎。シンポジウムは、領域代表会議での承認が必要。他学会員の発表も可能。(通常での開催を希望する場合は企画とは別に申し込む。)
- 継続的な開催を奨励するが、**2年程度(4学会)を目処**に考える。
- 企画セッションへの応募に関する情報は、学会誌の募集記事掲載に間に合わないため、**領域WEBにて公知**。
(秋学会用の学会誌での原稿締め切りは3月はじめ(領域会議前))

新規一般講演セッションの提案

日本物理学会第68回年次大会
領域2運営会議 2013.3.27
核融合科学研究所 伊藤公孝

一般講演セッションに

「非平衡極限プラズマ」を提案させていただきます。平成25年度の秋の学会からこのセッションを実施したいと考えております。

目的

磁化プラズマから高エネルギー密度プラズマやナノ・バイオプラズマまで広く展開している最先端プラズマ物理研究を、非平衡極限のプラズマの共通学理から議論することを目的とする。従来のセッション構成では、このような広い分野に関わる共通のプラズマ物理に関する議論を継続的に行うことが難しい。この細目を新設することは、物理学会のさらなる活性化につながると期待される。

期待される講演件数(当面): 15~20件程度から始める

第7回「プラズマ宇宙物理」3学会合同セッション

日本物理学会第68回年次大会 2013年3月26日(火)～29日(金)

場所: 広島大学 東広島キャンパス(広島県東広島市)

一般講演 63件(口頭のみ)

物理学会 30件

SGEPSS 17件

天文学会 16件

シンポジウム

「プラズマ宇宙物理」3学会合同シンポジウム 8件

乱流が引き起こす角運動量輸送 8件

3学会共催関連全講演数 79件

3学会関連シンポジウム・インフォーマルミーティングの日程

「プラズマ宇宙物理」3学会合同シンポジウム 27日 14:00～

EA会場

乱流が引き起こす角運動量輸送 28日 13:30～ EA会場

「プラズマ宇宙物理」合同セッション・IM 28日 17:05～ EA会場

今後の3学会共催について

これまでに開催された共催セッション

- 第1回 日本物理学会60回年会(2005.3) 口頭発表121件
- 第2回 地球惑星連合大会(2006.5) 口頭93件、ポスター92件
- 第3回 日本天文学会秋季年会(2007.9) 口頭97件、ポスター10件
- 第4回 日本物理学会64回年会(2009.3) 口頭151件
- 第5回 地球惑星科学連合大会(2010.5) 口頭107件、ポスター62件
- 第6回 日本天文学会春季年会(2012.3) 口頭50件、ポスター36件
- 第7回 日本物理学会68回年会(2013.3) 口頭79件

次回第8回 地球惑星科学連合大会(2014.5)
または 地球電磁気・地球惑星圏学会(2014秋)

- ・第7回は第1回、第4回と比べ講演数が減少しました。
- ・第1回、第4回は3学会共催の定着を図るため、かなり強力に個別勧誘しました。
- ・第7回では特別な呼びかけはしませんでした、多くの方に参加いただけました。
- ・アンケート調査からも現時点で既に8割以上の方が再参加を希望されています。
- ・アンケート調査の報告や次回以降の方針等の議論、その他3学会の情報交換を、

「プラズマ宇宙物理」合同セッション・IM 28日17:05～EA会場

にて行います。ぜひ積極的にご参加、ご意見ください。

6) PLASMA CONFERENCE 2014 の開催案内

PLASMA CONFERENCE 2014

期間:2014/11/18(火)- 11/21(金)

場所:朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター) 新潟市

運営主体 …プラズマ科学連合運営委員会

主催団体 プラズマ・核融合学会……年会を兼ねる
日本物理学会(領域2)……分科会を兼ねる
応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会……SPPを兼ねる

第1回のPLASMA CONFERENCE2011は、金沢で開催され**1,000人以上の参加**がありました。主催の3学会に加えて、15の団体が協賛として参加し、**プラズマに関する日本最大の会議**となりました。第2回のPLASMA CONFERENCE 2014では、さらに連携を強化した会議を目指しています。

幅広い分野からの参加をお願いいたします。

会議の詳細や申し込み方法などをWEBページにて公開予定です。

6) PLASMA CONFERENCE 2014 開催に向けて

運営主体 ……**プラズマ科学連合運営委員会** 運営委員長 田中和夫(阪大)

プラズマ・核融合学会 上杉(金沢大), 金子(東北大)

日本物理学会 菊池(JAEA), 古川(鳥取大)

応用物理学会 白谷(九大), 堀 勝(名大), 栗原一彰(東芝)

主催団体 プラズマ・核融合学会

日本物理学会(領域2)

応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会



次回、**物理学会領域2が幹事学会**として準備。

(2012年9月分科会領域会議で了承)

プログラム等検討委員会

物理学会: ○安藤 晃(東北大)、米田仁紀(電通大)、居田克巳(核融合研)、古川 勝(鳥取大)

プラズマ・核融合学会: 米田仁紀(電通大)、上杉喜彦(金沢大)、坂本慶司(JAEA)、福山 淳(京大)

応用物理学会: 寺嶋和夫(東大)、野崎智洋(東工大)、豊田浩孝(名大)

プラズマ科学連合: 田中和夫(阪大)

物理学会領域2役員会: 齊藤輝雄(福井大)、蓮尾昌裕(京大)、宮戸直亮(JAEA)、田村直樹(NIFS)、永岡賢一(NIFS)

プログラム等検討委員会は、3回(2012/7, 2012/11, 2013/2)で終了。

⇒検討項目は、運営委員会で承認して決定

6) PLASMA CONFERENCE 2014 開催に向けて

プログラム等検討委員会のまとめ

- ・ 会場・会期

- 期間: 2014/11/18(火) - 11/21(金)

- 場所: 朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター) 新潟市

- 1000人規模のホール + 数百人規模: 4会場 + 100人規模: 2会場 + ポスター会場

- 現地実行委員長: 小椋一夫教授(新潟大)

- ・ 予算

- 参加費: 会員2万円、学生4千円程度を検討。所属学会に関係なく統一したい。

- 新潟県、新潟市の補助金の申請

- プラ核学会事務局への業務委託は、契約方法など要検討。

- ・ プログラム

- 基本的考え方: 3学会で統一してプログラム委員会を構成し、プログラム構成や連携を議論する。

- キーワードについて、プログラム委員会内で検討し、3学会で統一して決める。

- 一般講演は、できるだけポスター発表を中心として構成。論文化は強要しない。

- 魅力ある会議とするために、国際セッションの企画、プレナリー、招待講演、チュートリアル、若手支援策、企業の研究者を対象にした賞などを検討する。

- ・ 今後のスケジュール

- 趣意書を作成し、組織委員会、運営委員会、プログラム委員会を組織。

- Webページ等による広報の開始。補助金の申請など具体的なアクション。

領域2懇親会のご案内

日時： 2013年3月27日(水)
18:00～20:00

場所： レストラン La Boheme
(ラ・ボエーム)
広島大学学士会館1階
(Tel: 082-423-2224)

参加費： 一般 4,000円、学生
2,000円

飛び入り参加歓迎します！！

懇親会担当: 東口・岡本



領域会議終了後、すぐに申し込みしてね！（この会場に申込用紙あり）

5時半から会場OK



関連報告, その他



APPC12

The 12th Asia Pacific Physics Conference

是非アブストラクト投稿を！
※切は4月10日です

アジア太平洋物理会議 (APPC12)

www.jps.or.jp/APPC12/index.html

7月14-19日 幕張メッセ国際会議場 (千葉)

参加登録も開始

Deadline of Abstract Submission: April 10, 2013

Deadline of Early Registration: June 15, 2013

<http://www.jps.or.jp/APPC12/index.html>

– 日本物理学会、応用物理学会共催

AAPPS(アジア太平洋物理学連合)の国際会議 ほぼ3年に一回開催 12回目
7月14-19日 幕張メッセ国際会議場(千葉)

14日 Welcome Drink

15-19日 本会議

午前: プレナリーセッション

午後: パラレルセッション(専門分科会)

Proceedings を JPSJ よりオンライン出版(含ポスター発表)

ASEPS (Asia Europe Physics Summit) — ヨーロッパとアジアの協力へ —

16日午前 招待講演、16,17日午後 ラウンドテーブルディスカッション(APPCと並行開催)

市民公開講座 「宇宙の果てから、医療の実現まで ~自然界の理を説明する、物理学の世界~」

14日午後 3講演

アブストラクト投稿: **4月10日まで**

<http://www.jps.or.jp/APPC12/abstractsubmission.html>

参加登録

<http://www.jps.or.jp/APPC12/registration.html>

※ 参加者規模 700 名を設定。国内参加者の大きな寄与を期待。

12th Asia Pacific Physics Conference , July 14 - 19, International Conference Hall, Makuhari, China, Japan

Visit APPC-12 web : <http://www.jps.or.jp/APPC12/index.html>

APPC-12 Plasma Science Program

	14-Jul Sunday	15-Jul Monday	16-Jul Tuesday	17-Jul Wednesday	18-Jul Thursday	19-Jul Friday					
9:00-12:20		K. Phua, A. Arima, C.N.Yan, M.Kobayashi, K.Kitazawa, Liu Chen	ASEPS, I.Antoniadis S.Maier, T.Tajima , T.Leisner	Y. Wang, P. Chen, H. Tamura, H. Hosono, X. Qikun, M.Simmons	H. Wen, R. Robinson, I. Ko, Y. Arakawa, CH. Nam, P. Jolly	A. Mehta, K. Shibata , PK Chu , S.Iijima ,					
12:20-14:10		Lunch	Poster session	Lunch	Poster session	Closing					
14:10~16:10	Public lectures	D1-1(303) Chair xxxxx [Toroidal plasma and MHD]	D3-1 (304) Chair [High Energy Density Science]	D1-2(303) Chair X. Duan [Turbulence]	D3-2 (304) Chair [High Pressure Laser Science]	D1-3(303) Chair O. Ishihara [Basic plasma]	D3-3 (304) [Laboratory Astro Plasma Physics]	D1-4(303) Chair xxxxx [Transport]	D2-4 (302) Chair M. Kambara [Plasma Material Science]		
		D1-1-1 H. Park	D3-1-1 Anle Lei	D1-2-1 A.Fujisawa	D3-2-1 R. Kodama	D1-3-1 Lin I	D3-3-1 Y. Sakawa	D1-4-1 K. Itoh	D2-4-1 N.M. Hwang		
		D1-1-2 M. Hole	D3-1-2 R. Kumar	D1-2-2 J.Q. Dong	D3-2-2 J. Fuch	D1-3-2 S. Mahajan	D3-3-2 F. Wang	D1-4-2 S.S. Kim	D2-4-2 S. Mukherjee		
		D1-1-3 Z. Lin	4 Orals	D1-2-3 S.H. Ku	4 Orals	4 Orals	D3-3-3 M.Yamada	D1-4-3 G. Xu	D2-4-3 R. Boswell		
		3 Orals		3 Orals			3 Orals	3 Orals	3 Orals		
16:30~18:30		D2-1 (303) Chair T.Wei [Semiconductor device processing]	D4-1 (304) Chair X. Wang [Space Plasma]	D2-2 (303) Chair R. Boswell [Plasma Green Technology]	D4-2 (304) Chair R.Matsumoto [Solar and Astro Plasma]	D2-3 (303) Chair K. Kitano [PlasmaLife Science]	D4-3 (304) [Plasma simulation]	D10 (303) [Physics oriented joint session& D1,D4 summary]	D20 (302) Chair E. Neyts [Application oriented joint session& D2,D3 summary]		
		D2-1-1 K. Kurihara	D4-1-1 C.Z.Cheng	D2-2-1 T.C Wei	D4-2-1 G.Bicknell	D2-3-1 S.Hamaguchi	D4-3-1 M.Hoshino	D-JS-2-1 R.Sagdeev	D-JS-1-1 F.F.Chen		
		D2-1-2 C. Hsu	D4-1-2 M.A. Lee	D2-2-2 E. Neyts	D4-2-2 S.Tsuneta	D2-3-2 X.P. Lu	D4-3-2 M.Miesch	D-JS-2-2 A.Hasegawa	D-JS-1-2 R. Hatakeyama		
		4 Orals	4 Orals	D2-2-3 P. Mukherjee	4 Orals	4 Orals	D4-3-3 Y. Lin	D1-Summary A.Sen	D2-Summary H. Fujiyama		
				3 Orals			3 Orals	D4 Summary D.Ryu	D3 Summary H.Takabe		
18:40~20:40 (or to 21:30)	APPC-12 Welcome Cocktail	Informal meeting		Informal meeting		APPC-12 Banquet	Informal meeting				

Abstract submission: <http://www.jps.or.jp/APPC12/index.html>

(January 28 to April 10)

Oral talks will be decided among submitted abstracts by the Plasma Physics and Plasma Processing Topical Program Committees

For proposal of informal meeting, contact M. Kikuchi (Chair of plasma physics topical program committee)

kikuchi.mitsuru@aea.go.jp

Registration fee	Before June 15	After June 15
Regular	30,000 Yen	35,000 Yen
Student	15,000 Yen	15,000 Yen

Registration fee includes banquet and paper submission to JPSJ Suppl.

日本学術会議物理学委員会の活動報告

日本学術会議会員 物理学委員会委員長 

伊藤早苗(九州大学)

22期の活動報告

学術の大型装置計画・大規模研究計画(マスタープラン)

学術会議と物理学会の合同シンポジウムが
3月28日、12:30 ~ 13:30
XH会場(総合受付近傍)で開催されます。